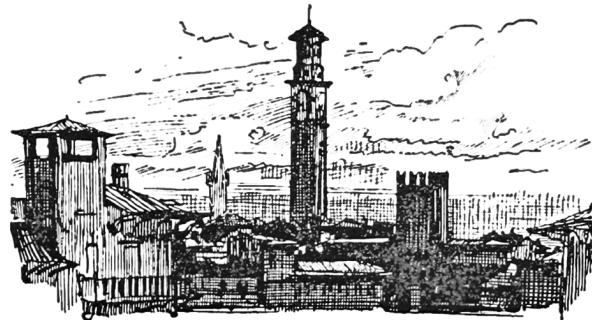


旅人

昔、一度だけ、父さんに連れられてこの街にやって来た事がある。もう二十年も前の話だ。子供時分の記憶だが、今でもうっすらと思い出す。一日中、夜の闇と原色の喧噪に覆われた街。熱く活気に満ちたその街は、きらきら輝く宝箱のように、幼い僕の目にまぶしく映った。目抜き通りを照らす、店の灯りはやさしく一

(白む空に朝を思い
駆け寄った窓の外
背伸びをしても
光は見えない

静かに息を止めたように
仰ぎ倒れた空は
明るさを失い
また夜闇に飲まれる)



一終業の鐘が鳴り渡り、目抜き通りは工場帰りの男たちや連れ立った女たちで賑わいだす。通りに面したどの店からも、陽気な笑い声と音楽が絶えない。二十年前と変わらない街の光景だ。

僕がここ数日行きつづけている店は、労働者がよく集まる歓楽街の一角にあった。そろそろ馴染みの連中が来るころだ。カウンターで店主と世間話をしている間に、だいぶとお客様が増えた。今月の納期がどうだの、この間別れた女がどうだの、隣の工場の新人がどうだの…それぞれのテーブルに話題が尽きるはことない。

この街の人々は殊更に明るい。闊達な気質とでも言うのだろうか、皆おおらかだ。年中のっぺりとした暗闇に包まれているわりには、退廃的で陰鬱なイメージはこの街のどこにも見当たらない。人々は己の仕事に誇りをもっていた。始業の鐘から終業の鐘まできっかし、汗をかいて働く。一日の終わりには仲間たちと、家族と、今日の労働を互いにねぎらいあう。

街から出て行く人が少ないというのも頷ける。ここには、幸福な生活があった。慎ましくも幸せな日々だ。この街にさえいれば、その機会は存分に与えられる。この閉ざされた城壁の中で。

ただ、朝だけが来ないのだ。いくら待っても日を重ねても、果たして朝が来ることはない。街の人にとってみれば、それはどうだっていいことなのかもしれない。朝が来ようが来まいが、彼らの生活には、何ら関係のないことなのだから。だが、それが僕には、なんだか妙に思えてならないのだ。

(暗い路地に火花は踊り
いくつもの煙突が
夜空に赤く
燐然と立ち尽くす

その足元で
明けない夜は
美しく恐ろしい夜明けの縞子を
一瞬翻して笑う)

遠くで鐘が鳴っている。また、一日がはじまろうとしていた。眠たい目をこすりながら、僕は窓の外を見やった。空が円い。街に蓋をするように広がる空は、じょじょに白みはじめていた。また始まる今日の日に、こうして朝は来ないのだ。

丸ノ内ノイ

Piano

$\text{♩} = 108$ $\text{♪} \text{—} \text{♪} \text{—} \text{♪}$

Soprano

Alto

6

mp むかしいちど
むかしいちど

11

だけこのまちにやつてきたことがーーあ
だけこのまちにやつてきたことがーーあ

16

S. る 一 もう に じゅうねんも まえ の はなし だ とう

A. る 一 もう に じゅうねんも まえ の はなし だ とう

Tenor *p* Lu とう

Bass *p* Lu とう

22

さんに つれら れて ー ー

さんに つれら れて ー

さんに つれら れて ー ー

さんに つれら れて ー

Piano accompaniment: Measures 22-23 show a rhythmic pattern of eighth and sixteenth notes in the right hand, and sustained notes in the left hand.

28

mf
こども(ぎよ)じぶんかのねがきなり
こども(ぎよ)じぶんかのねがきなり
こども(ぎよ)じぶんかのねがきなり
こども(ぎよ)じぶんかのねがきなり

28

33

くわだたがりいめまぬできもおどもり一二に
くわだたがりいめまぬできもおどもり一二に
くわだたがりいめまぬできもおどもり一二に
くわだたがり一二いめまぬできもおどもり一二に

33

37

すは 一 いちにば ち一じゅう よるのこ やみたち
すは 一 いちにば ち一じゅう よるのこ やみたち

42

とや げんしょくのけんそうちにおおわぎわたいまだ
とや げんしょくのけんそうちにおおわぎわたいまだ
とや げんしょくのけんそうちにおおわぎわたいまだ
とや げんしょくのけんそうちにおおわぎわたいまだ

46

ちす
ちす あと つくり かつに きに みちた そのま ちせ
ちす U
ちす U
ちす U きよ

46

51

57

まで ぶーしい くた ぼあくの のこ めろ にと うか つわ つら
まで ぶーしい くた ぼあくの のこ めろ にと うか つわ つら
まで ぶーしい くた 一 ぼあくの のこ めろ にと うか つわ つら
まで ぶーしい くた ぼあくの のこ めろ にと うか つわ つら

62

たず 一 めぬき どおーりう をな てらすみーせび
たず 一 めぬき どおーりう をな てらすみーせび
たず 一 めぬき どおーりう をな てらすみーせび
たず 一 めぬき どおーりう をな てらすみーせび

67

のにあかりはー やさしなくい ー ー
のにあかりはーあかりー はー ー
のにあかりはーあかりー はー ー
のにあかりはー やさしなくい ー ー

3

72

しくららむいそろらにーーあひさばをな
しくららむいそろらじにーーあひさばをな
しくららむいそろーらじにーーあひさばをな
しくららむいそろらじにーーあひさばをな

f

77

おは 一 もい 二 一 かい けく よつ つも たの
おは 一 もい 二 一 かい けく よつ 一も つ たの
おは 一 もい 二 一 かい けく よつ 一も つ たの
おは 一 もい 二 一 かい けく よつ つも たの

77

82

まえ ど のそ と が せ のび を し て も ひか り は 一 みえ
まえ ど のそ と が よぞら に あ か く さんぜ ん と 一 たちつ
まえ ど のそ と が せ のび を し て も ひか り は 一 みえ
まえ ど のそ と が よぞら に あ か く さんぜ ん と 一 たちつ
まえ ど のそ と が せ のび を し て も ひか り は 一 みえ
まえ ど のそ と が よぞら に あ か く さんぜ ん と 一 たちつ
まえ ど のそ と が せ のび を し て も ひか り は 一 みえ

82

97

たし おく れお たそらし はい あかるさを一うしすない一 よる
たし おーく れお たそらし はい あかるさを一うしすない一 よる
たし おーく れお たそらし はい あかるさを一うしすない一 よる
たし おく れお たそらし はい あかるさを一うしすない一 よる
たし おく れお たそらし はい あかるさを一うしすない一 よる

102

やみに のまれる ー ー ー
やみに のまれる ー ー ー
やみに のまれる ー ー ー
やみに のまれる ー ー ー

108 1.

1.

1.

1.

1.

108 1.

mf

114

mf しゅう

114

mf しゅう

114

mf しゅう

114

121 2.

まど の む こ う に は しら むそ ら

U また は

U

2.

121 2.

mf

mp

129

じ ま る き よ う に あ さ は

129

p.